



説林

讀書に付きて

牧羊

アイザック、ワッツといふ人は、智識收得の五大方法として、次の五つを挙げた。

- 観察によること
- 讀書によること
- 演説によること
- 會話によること
- 考慮によること

吾人は茲に、此凡べてを説くの暇がないからして此中の一つ即讀書といふことに付きて、多少述べて見たいと思ふのである。

一體日本人は讀書には餘り興味を持たない様
思ふ。一寸した例ではあるが、汽車の中でも、外
國人などの多数は大抵書物を見て居る、日本人で
あると、先づ外を眺めて外界の觀察でもして居る
のは寧ろ上の部で、大抵は茫然として居る、否ら
ずば居眠りをして居るのが多い彼は暇さへあれば
讀書する、我は暇があると茫然として居る、送り
物に書物を使ふことなどは彼國では、最も普通の
様であるが、我國では頓としない、シルレルの全
集は嫁入道具の缺くべからざる一つとなつて居ると
いふ位、彼國では婦人であっても讀書の趣味が發
達して居る、勿論種々の點から之は觀察しなけれ

ばならないが、兎に角我國では讀書の趣味が一般に少いことは明かである。

そこで第一番に

一、讀書の利益

から書き始めようと思ふ

(1) 書籍を讀むことによりて吾々は、國の遠近を問はず、現代及過去に於ける人々と自由に交際して、其思想なり事績なりを、最も廣く知り得ることが出来る、つまり讀書によりて吾人は人類の所有方面から何か知らん學ぶことが出来るのである。他の方法例令ば觀察などであると、一切自力で學ぶので、其知識も亦自分で觀察され得る範圍に止まるものである、人と談話することも吾人の智識を得る必要な方法に違ないが、さりながら、一所に談話をする所の人の數も亦まことに少數といはね

ばならぬ。即ち共に語る人といは、先づ自分と時を全うし所を全うする人でなくてはならぬ。又自ら物事を考慮することは勿論必要に違はないが、自分で考へるだけでは、得る所の智識の範圍といふものは實に狭少なものだといはねばならぬ。尙且つ所謂下手な考休むに似たりで、足らぬ智力で以て獨りで考へた所が、其結果はつまり休んだのと同じことで、併も得る所なくして終るとが、屢々ある。そこへ以て一道の光明直ちに暗黒界を照らして向ふ所を指導し呉れるものは、實に書籍の賜である。

(2) 次に讀書に依りて吾人は、各國各時代の人々の思想行爲を知るのみならず、實に人類中の最も博識なる、最も賢明なる最も善良なる人々の智識思想を收得することが出来る。勿論多數の出版物の

ことであり、殊に今日の如く汗牛充棟も當ならぬほど、書物が出版せらるゝことであるからして、其中には丸で平凡な、偏見な人の手になつて、讀んで秋毫の利益のないのみならず反つて幾多の有害な影響を與へる様なもののあることは疑ふべからざることであるけれども、然も其中の善良なものであつて、世界の名譽を荷つて居る書物は、各國各時代に於ける、最も偉大賢明なる人士の精神的産物である、座らにして、此の如き人士の思想感情智識を收得することの出来る方法は、讀書を措いて果して他に如何なる方法あるべきか。

(3)のみならず 善良なる書物を讀むことは、彼の最も偉大賢明なる人士の精神的産物中でも、殊に最良なる、殊に琢磨されたる、殊に刻苦して出来た所の思想に接することが出来るのである。何と

なれば、善良な書籍といふものは、畢竟此の如き名士の苦心慘憺たる長日月の勉強と經驗との結果を書いたもの、其最も成熟した思想を書き下したものであるからである、演説とか、談話とかであつて見ると例令名士であるにした所が、矢張同時代の人に限られるし、且つ又其考や思想といふものも其人の其時の考によるとが多いものである。

(4)次に讀書によりて得る所の智識は、屢之を復習することの便利がある。一旦讀んで得た所の事柄は吾人の勝手な時に於て、其書物を何度でも繰り返し、繰り擴げて讀むことが出来る、従つて其智識を何時までも消失させないで保存し得ることが出来る談話とか、演説とかであると、大抵は日月の経過とともに、聞いた智識は薄らいで行くとか普通である。尤も吾人は有益な演説とか談話

とかを聞いた時には必らず、其要點を筆記して置いて、忘れても夫を出して又思ひ出す様にするとは最も必要なことと考へて居るが、時としては、左る時間がない爲めに、幾多有益な智識を一時限りとして、消失せしめる場合が甚だ多いのである。(5)次に讀書によりて智識を得ることは、其他に比較して最も便利な煩のない方法である。自分獨りで觀察し考慮すると同じ様に、相手が要らない。即ち他人を待たないで、自分の勝手な時、處に於て讀むことが出来る、相手の感情を害するや否やと云ふ苦心も要らなければ、相手に向つて腹を立てる必要もない。だから、世の中を見捨てた人などは、遠く退いて獨り圖書を左右にして悠々として自ら楽しんで居る、即ち少しも他から牽制せらるゝことがなくつて、然かも高尚な眞理の巷に遊

ぶことの出来るのは獨り善良な書籍の賜ばかりではあるまいか。

まだく永たらしく、形容澤山に并べ立てようものならば、とてもこゝに僅々の頁數では書さ盡すことが出来ないと思ふから、讀書の利益といふ點は茲で擱事することにする。

だが、これは讀書の利益といふ點のみを擧げたので、無論之等の利益を得んとするには、幾多の注意を要する。でない、之等の利益を得ることが出来ないのみならず、反對に讀書の弊害を見ることになるかも知れない。

ことに、現今の時代の様に印刷物の濫出する時に當つては、一段讀書の注意が必要である。だから次には一步を進めて其要點に向つて書さ及ばさうと思ふ。